NPO法人加治川ネット21情報紙
かじかNET21
No.9
2009年 4月 1日発行

水辺のひろば

旧加治川村にて

川のある風景
～春の小川～

春の小川は　さらさら行くよ
岸のすみれや　れんげの花に
すがたやさしく　色うつくしく
咲けよ咲けよと　ささやきながら

春の小川は　さらさら行くよ
えびやめだかや　こぶなのむれに
今日も一日　ひなたでおよぎ
遊べ遊べと　ささやきながら

小学校で歌った曲であり、この曲を聴くと小さい頃の情景が浮かぶ。

1912年（大正元年）に高野辰之という人が作詞し、1942年（昭和17年）に林柳波という人が文語体を口語体に変え、さらに戦後の1947年（昭和22年）に今日のような歌詞になった。歴史の変遷を経たこの曲もその情景は随分と過去のものになってしまった。川の畔で人が暮らし、川は産業構造や時代の変化で急激に変わっていった。利水や治水はもちろん大切ではあるが、歌の無くなった川になっていくのはどこか寂しい。美しい日本語は風景と無縁ではないような気がする。

宝物みーつけた
宝光寺としだれ桜

新発田市諏訪町2丁目（旧寺町通り）にある広澤山宝光寺は、新発田藩主溝口家の菩提寺です。

初代藩主溝口秀勝は、若狭の長浜城主でしたが、加賀大聖寺を開創しましたが、慶長3年（一五九八年）新発田に入封し、当山も新発田に移りました。慶長10年（一六一〇年）、二代宣勝が新伽藍を建立して浄見寺と改めましたが、五代将軍徳川綱吉が没し常憲院と称したことにより、同音を避けるため宝光寺と改め現在に至っています。

山門は弘化2年（一八四五年）に復興されたもので、楼上に十六伽藍を安置し、新発田市の有形文化財にも指定されています。

総門に「城東法窟」と言う額が掲げられていますが、これは「城の東の仏道の修行場」と言う意味が込められています。

境内の一角にあるのが「城東窟の桜」です。推定樹齢約350年といわれるしだれ桜ですが、この桜は三代将軍徳川家光から寄進されたものと伝えられており、毎年、4月10日ころにはきれいな花が見ごろとなります。

くらしの方言 その3
「あいでくれ」

今年は「あい」の言葉がブームです。

孫　娘　「じいちゃん、ばあちゃんが『愛』をくれって言ってるよ。」
じいや　「なしたや？　何を今さら。」
孫　娘　「だって、スーパーと薬屋で愛をくれっていうかぁ･･･。」
じいや　「あー、それは『**あいでくれ**』、一緒に連れて行ってくれ ということやれ。」
孫　娘　「なーんだ。そうなの。」
じいや　「せば、おめぇも **あべぇ。** いげば なんか こうでやるわの。」
孫　娘　「あべ？ それも行くってことだね。行く行く、やったぁ！」

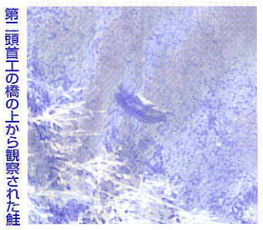
「あいで」「あべ」は、歩みから、**あ**るい**で**行く**べ**しを転じたもので、どちらも「共だって行こう」の意味があります。

こんな場所発見
加治川に鮭遡上

毎年秋になると北日本の川では鮭が遡上してきます。新潟では村上の三面川が有名ですが加治川でも鮭の遡上を見ることができます。

11月頃、第二頭首工の橋の上から川の中を見ると何匹かの鮭が泳いでいる様子が見えます。頭首工の堰に阻まれ、遡上をあきらめた鮭が浅瀬に産卵場所を探している様子も見ることができます。

その体は、既に白くなり、幾多の試練を越えてきた傷跡が大きく刻まれています。既に事を成し終えて、その身を淀みの底に横たえているものもあります。



第二頭首工の橋の上から観察された鮭

昔はどの川でも見られた光景なのでしょう。いろんな障害を乗り越えてきた彼らの大事な卵が、一粒でも多く孵（かえ）り、この命の循環が永く続くことを願っています。

※加治川の下流には、鮭、鱒孵化場があり、鮭の稚子の放流を行っています。

《編集後記》

村上市では、毎年3月に町屋の人形さま巡りが行われます。家に古くからあるひな人形などを店に飾る、客は商品を買う訳ではなく人形を見に店に入る、何気ない会話を楽しみ店を出るときは「折角だから」と商品を買って帰る。商品を売ることよりも町屋の良さをPRしたそんな「些細なこと」が村上市の活性化につながっています。近年、このイベントに合わせ、SLも走り、その姿を写真に収めようと、今年も沿線の撮影スポットには、おおぜいのカメラマンの姿が見られました。町屋、ひな人形同様、SLもまた消えかかろうとする文化の復活です。

文化は残そうと努力しなければ、すぐに消えてしまいます。自然環境も同じです。一人でも多くの人がそれに気づくこと、一緒に活動すること、それが大切です。加治川ネットの活動がそんな一助になればと思います。

応援してください
NPO法人
加治川ネット21　**会員募集**

年会費：個人 2,000円／法人 10,000円
事務所所在地：新発田市小戸886-1
電話：(0254)31-4111　**FAX：**(0254)31-4088
Mail：kjn21@ml.shibata.ne.jp
ホームページアドレス：
http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/
会費振込先：
郵便局　00500-5-35812

レポート

荒橋小学校の6年生が全国大会で活動発表

1月24日、京都府亀岡市で「子どもの水辺保全フォーラム全国大会」が開催され、荒橋小学校の6年生16人が、活動発表を行いました。このフォーラムは、保津川を抱く亀岡市が、水辺の環境を守る運動を進めたいと、初めて開催したもので、発表は地元亀岡市や三重県、福井県などの学校、NPO7団体。

フォーラムへの参加のきっかけは、一昨年、五泉市で開催された「湧水フォーラム全国大会」に参加していた亀岡市が、同市で開催するフォーラムに新発田市からも参加してほしいと、加治川ネットへ協力依頼があったことからです。

当会は多くの小学校で総合学習の授業を担当させていただいていますが、今回は水辺環境ということで、絶滅危惧種イバラトミヨの保全に取り組んでいる荒橋小学校に発表をお願いしました。引率は校長先生などの学校関係者や保護者、そして当会からも4人が参加しました。

荒橋小学校の児童たちは、イバラトミヨの保護活動について発表。「川がコンクリートで固められ、生活雑排水で生物の棲みかが奪われている」「川を汚すのもきれいにするのも人間」と訴え、また、後半では、朱鷺の写真をスクリーンに映し、朱鷺の棲む新潟県をもPRし、「新潟県PR大使」の役割までもしっかり果たしていました。

一泊二日で京都への往復という強行スケジュールで、観光はほとんどできませんでしたが、児童たちにはよい思い出になったようです。

まちづくり活動応援事業 堂々の一位

新発田市がまちづくり活動に取り組む団体に報奨金という形で支援する「まちづくり活動応援事業」の審査会が、3月7日、生涯学習センターで開催されました。この事業は年度初めに登録団体を募集し、3月に各団体が発表する活動を審査員が評価し支援金を贈呈するもので、今回が5回目。

審査会には福祉、環境、文化など様々な分野から14団体が参加し、5分という短い時間の中で、それぞれの活動を紹介しました。

当会は、昨年秋に実施した小学生による環境学習発表会の話を中心に、絶滅危惧種イバラトミヨの保全、子どもの時から環境に目を向けさせるための環境学習の必要性などを、若月理事長が淡々と発表しました。

審査の結果、当会が1位になり、報奨金をいただきました。今年はどの団体の活動もレベルが高く、拍手を送りたくなるものばかりで、今後、団体同士、連携した活動に発展できたらという思いを強く感じました。

今年も大盛況 我が家の手前味噌づくり

3月15日(日)、今年で5回目となる「手前味噌作りの会」が開催されました。

当日は、前半が有機の里交流センター主催、後半が加治川ネット主催の2コースで行われ、いずれも超満員。ネット主催のコースには37組54人の参加があり、初参加者や経験者共々、味噌づくりに挑戦していただきました。講師は市内の藤田味噌麹店の藤田さん。

作業は、講師が準備した材料(麹)に自分の好みの塩を混ぜ、それに茹でて潰した豆を混ぜ合わせた後、豆の煮汁を加えて練り混ぜるだけの簡単なものなのですが、自分の作る味噌となると自然に力がはいります。仕込み袋が破れる位に奮闘している方もいました。

一時間ほどで仕込みは終わりましたが、味噌作りが初めてで、あまりの簡単さに驚いている方や、昔は家でも作っていたという方、それを見ていたという方などの話も聞くことができました。「産地のはっきりした材料を使い、手作りのおいしい味噌ができるのが何よりの魅力です。」との声も聞かれました。みんなそれぞれの樽に仕込んだ味噌を見て満足そうで、半年後のできばえに期待するところです。

また、「来年も実施する予定」とPRしたところ、既に次回の申し込みをした方もあり、次こそは地元産の大豆の確保に努めていきたいと思います。

新発田の自然 「山の恵み 山菜」

山の雪解けを迎え、春の息吹きが感じられ、待ちに待った山菜摘みシーズンの到来です。マナーを守り、自然の恵みを少しいただいてみてはいかがでしょうか。

町場の人たちに「好きな山菜は何?」と聞くと、タラノ芽、フキノトウ、ワラビ、コシアブラ、コゴメ(コゴミ)などが思い浮かぶようです。どれもポピュラーでおいしいですが、「山菜の王様」といわれるゼンマイの名前があまり出てこないのは大変残念です。

ゼンマイは、深山へ行かないと採れないと思っているかもしれませんが、里山から平地の湿地や川岸などでも採ることができます。

ゼンマイは若葉が銭のように丸く巻いているので、「銭巻」からその名がついたらしいともいわれ、また、その綿毛は防水性に優れ、織って雨合羽などに利用されたという話もあります。

皆さんもゼンマイを摘み、干しゼンマイにしてみませんか。干したゼンマイは、保存も効き、風味が一段と増します。煮物や油いためなどに利用し、味わってみてください。

ゼンマイ採りにもルールがあります。雌雄株がありますので、よく知っている人に教わってから楽しんでください。マナーを守ることもお忘れなく。

団体紹介 Vol.9

加治川の桜を守りたい

加治川桜の里づくりの会

今年の桜の咲き具合は?毎年のことながら桜の開花時季になると、期待と不安が交錯します。

旧加治川村が里親制度を取り入れ加治川右岸に植栽した270本余の桜樹の育成を目的に、平成3年、当会が設立され、毎年、6月から11月にかけて育成作業をしています。近年その成果が顕著で、往年の「長堤十里桜のトンネル」も現実のものとなってきました。新発田市の観光スポットとしての一役を、この桜たちが担うものと期待し、育成を見守っています。

【お問い合わせ】
同会　布川(TEL 0254-33-2640)

環境豆知識

ツバル

太平洋上の日付変更線と赤道の交点から南へ1000kmのところに、「ツバル」という珊瑚礁の土地からなる島国があります。

面積は新発田市の20分の1くらいで、人口は1万人弱、平均海抜が1mで、農業と漁業から成り立つ国です。

今この国が近年の海面上昇の影響でまさに海に沈もうとしています。このまま地球温暖化が進むと、今世紀の中頃には世界の平均海面が50cm上昇するとの報告があり、地球自転と月による潮位の影響を受けやすい赤道付近では、さらに海面上昇が起こるとされています。

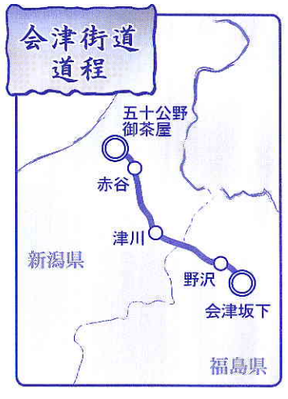
既に波の浸食を受けて海岸線が後退し、島のあちこちで海水が地面から噴出しています。

日本も島国。人口の集中する主要都市の大部分は沿岸部に集中しています。この小国の出来事は、遠くない日本の将来図を現実のものとして見せているのです。

参考出典:NPO法人「Tuvalu Overview」のHPより

寄稿

会津街道てくてく旅③



午前8時、野沢の宿を出発。目指すは20キロ先の会津坂下町役場です。

途中の綱沢では日本一小さな無名美術館の標識を見つけ、しばし道草することに。家主の折笠匡さんから美術館の説明を聞き、ついでに母屋の調度品なども見学させていただきましたが、その人柄に大いに感動しました。

今回の旅の資料作成には会津坂下町の歴史編纂委員古川さんに協力いただきましたが、何とその古川さんが峠の東屋で待っており、天然記念物の束松やひめさゆりの群生地などの説明を加えながら、天屋・本名集落まで案内をしてくださいました。聞けば古川さんは83歳とのこと。思わぬ心遣いに感謝し、その元気さには脱帽しました。

天屋で十一塩屋旅館で用意していただいた昼食のおにぎりをほおばり、休息の後、片門まではだらだら下りの県道を桑の実をつまみながら歩く。

塔寺では清水八幡宮と立木観音を参拝。清水八幡宮境内には、伊勢神宮や諏訪大社など全国有名神社の分社がありました。

塔寺から国道に出て、午後3時、会津坂下町役場に到着。次回に想いを馳せ、今回の行程も終了です。

NPO法人 加治川ネット21団体会員紹介(順不同)
㈱日園、曽根建㈱、㈲みずほ園芸、片山食品㈱、㈱アートグラフィック新潟、大進電業㈱、㈲大豊電気、㈲ひかり電工、㈲ミトモ電設、ベック㈲、北越緑化㈱、新発田ガス㈱、菊水酒造㈱、
NPO法人 赤とんぼ、㈱馬場工務店、㈱静岡グリーンサービス、聖光園㈲、はまだ歯科医院、エヌシーイー㈱、㈱花安、新潟グリーンテック㈱、㈲高橋基礎、若月建設㈱、昭栄印刷㈱